

# 経営学史学会通信

第18号 2011年10月

## 第7期理事長を拝命して

経営学史学会理事長 小笠原 英司

第19回全国大会が、本年5月20日・21日・22日を会期として青森公立大学で開催され、大会テーマ『経営学の思想と方法』のもとに活発な議論が展開されました。吉原正彦大会実行委員長をはじめ実行委員会諸氏の周到な準備と行き届いた大会運営に、あらためて衷心より敬意と感謝の意を表します。

この度の会員総会では役員の変更がなされ、新理事会において不肖小職が第7期理事長に推輓されました。大変光栄なことではありますが、小なりといえど、今や経営関連学会の中で最も学術性が高い学会の一つと評価される当学会の運営を担う重責を痛感しております。浅学非才の小職がその任に相応しいとは思われませんが、拝命したうちは、当学会の発展のために微力を尽くしたいと決意しております。幸いにも、風間信隆先生と勝部伸夫先生を東西の副理事長にご就任頂きましたので、両先生の補佐を得ながら、また運営委員会および理事会での協議をもとに、「成人式」を迎える学会運営に臨んで行きたいと考えております。

思い返せば、1993年5月29日開催の当学会創立総会に先立ち、92年9月4日に第1回の設立準備委員会が開催され、ここに事実上経営学史学会が呱呱の産声をあげたこととなります。当時より事務方を受けもち、創立後も2005年5月に関西学院大学に移管するまで、当学会の事務局を担当してきました。当学会の創成期よりその基盤作りに裏方役として参与しえたことは、小職の誇りであり喜びでもあります。

当学会は、歴代の役員の方の熱意と努力、そして何より会員諸氏のご協力により順調に発展してまいりました。学会創立20年目の年度を迎えるにあたり、小職および第7期役員に与えられた継承使命は、具体的には、水準の高い全国大会の企画と二つの記念事業（経営学史事典第2版、経営学史叢書全14巻の刊行）の推進です。その実行は言うに及ばず、機あたかも東日本大震災復興のときに、当学会20年の総括を踏まえつつ、今後の20年に向けて、当学会の発展をどのように展望し構想するかが問われています。これは決して安直には応答できない難問ながら、私たちはこれに一定の道筋を拓く責任を課せられていると思料します。これは当学会の評価を懸けて総力を挙げて取り組むべき課題です。是非、会員の皆様の建設的意見とご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

## 第19回大会をふりかえって

2011年3月11日に発生した東日本大震災による影響が心配される中、経営学史学会第19回大会は、5月20日（金）から21日（日）にかけて青森公立大学において開催された。

今回の統一論題は、「経営学の「学」とは何か、その思想と方法とを歴史的に問う」という視座のもとで設定された『経営学の思想と方法』であった。同時に、こうした問いへのベクトルをより闡明するために、サブ・テーマⅠ：「経営学が構築してきた経営の世界を問う」ならびにサブ・テーマⅡ：「来たるべき経営学の学的方法を問う」も設定された。かかる統一論題とサブ・テーマのもと、第19回大会は、経営の「学」の存在の在り方、在りようを問い直し、さらにこれからの危機を乗り越えうる経営の「学」の思想性を成立させるにふさわしい学的方法はどのようなものなのかを問う大会となった。

まず開会の辞が大会実行委員長吉原正彦会員より述べられ、併せて同会員から「経営学の思想と方法」と題された基調報告が行われた。

引き続き行われた初日の統一論題報告では、前述のサブ・テーマⅠのもと、上林憲雄会員による「経営学が構築してきた経営の世界—社会科学としての経営学とその危機—」と題する報告が、また稲村毅会員による「現代経営学の思想的諸相」と題する報告がそれぞれ行われた。

2日目の統一論題ではサブ・テーマⅡで設定された視座のもと、菊澤研宗会員からは「科学と哲学の総合学としての経営学に向けて—理論理性と実践理性の学問—」と題する報告が、また庭本佳和会員からは「行為哲学としての経営学の方法」と題する報告がそれぞれ行われた。

各報告は、正に経営の「学」の存在の在り方、在りようを問い直し、その方法や社会的意義を再確認する上で、多くの知見を与えてくれるものであった。

また自由論題については、3会場において計6名による意欲的な報告がなされ、活発な質疑も交わされた。

総会では、1年間の活動報告と会計報告の後、第7期役員選挙が行われ、その後理事長より2010年度経営学史学会賞の審査結果について、論文、著作部門ともに受賞該当なしとの説明がなされた。引き続き、第20回大会が明治大学で開催することが確認され、開催校を代表して小笠原英司会員より挨拶があった。

今大会が充実した内容となり、首尾よく執り行えたのも、周到な準備をして頂いた大会実行委員長吉原正彦会員をはじめとする青森公立大学の皆様のお陰である。衷心より感謝申し上げたい。

（幹事 松田 健 記）

## 2011年度会員総会議事抄録

### 1. 2010年度活動報告

2010年度活動報告が承認された。

### 2. 2010年度収支決算案

2010年度収支決算案が承認された。

### 3. 2011年度活動計画

2011年度活動計画が承認された。

### 4. 2011年度収支予算案

2011年度収支予算案が承認された。

### 5. 第7期役員選挙

選挙管理委員長の立候補を確認したのち、大平義隆会員が選挙管理委員長として承認され、選挙方法・手順の説明ののち投票が行われた。

### 6. 内規改正について

内規（理事ならびに会計監事の選出方法）の項目につき、愛知、岐阜、三重、富山、石川各県を中部地区として明記する事が承認された。

### 7. 新入会員・退会者について

新入会員（10名）、退会者（27名）が承認され、総会員数が307名（一般256名、院生会員29名、終身・顧問会員22名）＋賛助会員2社であることが確認された。

### 8. 2010年度経営学史学会賞審査報告

高橋由明理事長より、2010年度については論文、著書部門ともに受賞該当業績なしとの説明があった。

### 9. 第20回大会開催校について

明治大学での開催が確認され、開催校を代表して小笠原英司会員より挨拶があった。

### 10. 年報体裁の変更、注表記形式の統一について

庭本佳和年報編集委員長より、年報の体裁を現行の縦書きから横書きに変更する旨説明があった。また、注の表記方法につき今後はハーバード形式で統一する事が承認された。

### 11. その他

・勝部伸夫会員より九州部会（2/24開催）の活動報告、岸田民樹会員より中部部会（12/11開催）の活動報告があった。

・「第19回大会をふりかえって」（通信・年報）の執筆を松田 健会員にお願いする事が承認された。

・高橋由明理事長より日本経済学会連合の活動内容につき説明があった。

・高橋由明理事長より経営関連学会協議会の活動内容につき説明があり、併せて経営関連学会協議会理事長の奥林康司会員からも当該協議会の活動につき補足的な説明があった。

・片岡信之会員より事典編集作業の進捗状況についての説明があった。

（総務担当 山口隆之 記）

## 経営学史学会・第7期役員

理事長 小笠原英司 (明治大学)  
副理事長 風間 信隆 (明治大学) 勝部伸夫 (熊本学園大学)  
理事

東ブロック	西ブロック
小笠原英司 (明治大学)	岩田 浩 (摂南大学)
風間 信隆 (明治大学)	海道ノブチカ (関西学院大学)
菊澤 研宗 (慶應義塾大学)	勝部 伸夫 (熊本学園大学)
澤野 雅彦 (北海学園大学)	上林 憲雄 (神戸大学)
高橋 公夫 (関東学院大学)	岸田 民樹 (名古屋大学)
藤井 一弘 (青森公立大学)	中條 秀治 (中京大学)
三戸 浩 (横浜国立大学)	庭本 佳和 (甲南大学)
	福永文美夫 (久留米大学)

会計監事  
吉原 正彦 (青森公立大学) 片岡 信之 (桃山学院大学)

顧問 三戸 公 加藤 勝康

幹事  
中村 秋生 (千葉商科大学) 寺澤 朝子 (中部大学)  
藤沼 司 (青森公立大学) 山縣 正幸 (近畿大学)  
松田 健 (駒澤大学) 山口 隆之 (関西学院大学)

総務担当理事 風間 信隆  
事務局担当理事 海道ノブチカ  
年報・通信編集担当理事 勝部 伸夫  
20周年記念事業担当 吉原 正彦

### 経営学史事典編集委員会

委員長：片岡 信之  
岩田 浩, 海道ノブチカ, 風間 信隆, 菊澤 研宗, 小山 明宏, 齊藤 毅  
憲, 佐々木恒男, 高橋 由明, 丹沢 安治, 出見世信之, 西岡 健夫, 万仲  
脩一, 渡辺 敏雄

### 経営学史叢書編集委員会

委員長：河野 大機  
小笠原英司, 岸田 民樹, 辻村 宏和, 福永文美夫, 藤井 一弘, 藤沼 司,  
三井 泉

### 運営委員会・年報編集委員会

岩田 浩, 小笠原英司, 海道ノブチカ, 風間 信隆, 勝部 伸夫, 高橋 公  
夫, 藤井 一弘, 山口 隆之

### 日本経済学会連合評議員・経営関連学会協議会評議員

風間 信隆, 高橋 由明

## 2010年度収支決算

自：2010年4月1日  
至：2011年3月31日

(単位：円)

収入の部			支出の部		
科 目	予 算	実 績	科 目	予 算	実 績
前年度繰越金	3,978,264	3,978,264	大会費 (2)	300,000	228,000
会費収入 (1)	2,000,000	2,010,000	年報買上げ費 (3)	900,000	876,302
賛助会員会費	90,000	90,000	年報発送費	70,000	60,600
雑収入	1,000	2,508	「通信」作成費	60,000	59,745
当期収入合計	2,091,000	2,102,508	会議費・交通費	700,000	378,360
			郵便・通信費	100,000	83,400
			振込み手数料 (4)	30,000	28,310
			事務局費 (5)	170,000	132,402
			日本経済学会連合分担金	35,000	35,000
			経営関連学会協議会会費	30,000	30,000
			記念行事関連費用	1,100,000	1,100,000
			年報査読委員手当 (6)	100,000	40,000
			経営学史学会賞審査委員手当	30,000	30,000
			九州部会費	50,000	50,000
			経営学史学会賞副賞	50,000	50,000
			予備費 (7)	100,000	50,000
			当期支出合計	3,825,000	3,232,119
			次年度繰越金 (8)	2,244,264	2,848,653
合 計	6,069,264	6,080,772	合 計	6,069,264	6,080,772

注

- (1) 納入率70% (終身会員を除く)
- (2) 第19回大会開催校援助
- (3) 第17輯350部買上げ
- (4) 郵便振替手数料, 銀行振込手数料
- (5) 消耗品費, 事務作業経費, ホームページ管理費等
- (6) 手当単価 5,000円×8名
- (7) 中部部会費
- (8) 現金・預金残高

現金	213,805
預金	1,296,698 (三井住友銀行甲東支店)
郵便口座残高	1,338,150
	2,848,653

記念行事関連費用勘定

(単位：円)

収入の部	支出の部
1,100,000	0
	次年度繰越金 1,100,000
合計 1,100,000	合計 1,100,000

## 2011年度収支予算

自：2011年4月1日  
至：2012年3月31日

(単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	実績	科目	予算
前年度繰越金	2,848,653	大会費 (2)	300,000
会費収入 (1)	2,000,000	年報買上げ費 (3)	900,000
賛助会員会費	90,000	年報発送費	70,000
雑収入	1,000	「通信」作成費	60,000
当期収入合計	2,091,000	会議費・交通費	700,000
		郵便・通信費	100,000
		振込み手数料	30,000
		事務局費 (4)	170,000
		日本経済学会連合分担金	35,000
		経営関連学会協議会会費	30,000
		記念行事関連費用	1,100,000
		年報査読委員手当 (5)	100,000
		経営学史学会賞審査委員手当	30,000
		九州部会費	50,000
		中部部会費	50,000
		経営学史学会賞副賞	0
		会員名簿作成費	200,000
		予備費 (6)	100,000
		当期支出合計	4,025,000
		次年度繰越金	914,653
合計	4,939,653	合計	4,939,653

注

- (1) 納入率70% (終身会員を除く)
- (2) 第20回大会開催校援助
- (3) 第18輯350部買上げ
- (4) 消耗品費, 事務作業経費, ホームページ管理費を含む
- (5) 手当単価5,000円
- (6) 慶弔費等臨時経費

## 2011年度経営学史学会賞の募集について

2011年1月1日から12月31日までに公刊された著書・論文を対象として、2011年度学会賞候補を公募中です。経営学史研究、経営学説研究、比較経営研究等、本学会の目的に沿う会員の研究業績（著書・論文）の中で特に顕彰の価値を有するものに、「経営学史学会賞」が授与されます。著書部門については年齢不問ですが、著書部門奨励賞と論文部門の著者は、刊行時満45歳以下の年齢とします。

締め切りは2011年12月31日です。下記の要領によって、自薦・他薦でご推薦下さい。

推薦用紙は経営学史学会のホームページでダウンロードできますので、所定事項を記入の上、事務局まで郵送でお送り下さい。

応募資格：応募期限内に公刊された著書・論文（共著を含む）の自薦・他薦（院生会員を含む）による。

応募方法：要旨，意義，特色を100字程度にまとめ提出する。

推薦方法：選考対象作の推薦は、推薦者1名につき著書部門1点，および論文部門1点，計2点を限度とする。

応募期限：2011年12月31日

審査方法：理事会が所管し、「学会賞審査委員会」を組織し、厳正に審査する。

~~~~~

## 経営学史学会年報第18輯『危機の時代の経営と経営学』の刊行

本学会の年報第18輯『危機の時代の経営と経営学』（文眞堂）が刊行され、第19回大会（青森公立大学）に参加された会員には会場で配布しました。大会に欠席された会員には郵送で配布いたしました。なお特別な場合（会費納入が2カ年以上滞っている場合には、配布を保留させて頂いております）を除き漏れなく配布いたしました。手違いがあり、まだお手元に届かない場合は事務局へお問い合わせ下さい。

年報第18輯は第18回大会（福岡大学）で報告された大会テーマの基調報告論文1編と統一論題論文，自由論題論文および統一論題の各論に関する文献資料からなり、本学会年報に相応しい本格的学術書として完成しました。

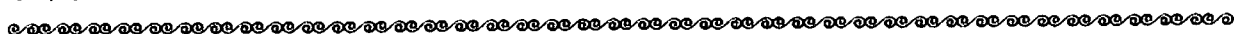
本年報が各分野の経営研究専門家にとって貴重な基本文献として活用されることは言うまでもありませんが、会員各位の授業，ゼミ，大学院でお使いいただければと思います。会員には既刊年報も含め、各巻定価2割引価格で受付けております。

年々学生の専門書離れが進行し、市販の専門書も苦戦を強いられている出版状況ですが、年報編集委員会としては今後も本叢書のレベルをさらに高めるべく努力するつもりでおります。それが本学会の学術的社会貢献を果たす正道と確信しております。なお、目下第19輯を編集中です。

## 年報第1輯～第17輯 バックナンバー

- 第1輯『経営学の位相』(1994年5月発行)
- 第2輯『経営学の巨人』(1995年5月発行)
- 第3輯『日本の経営学を築いた人びと』(1996年5月発行)
- 第4輯『アメリカ経営学の潮流』(1997年5月発行)
- 第5輯『経営学研究のフロンティア』(1998年5月発行)
- 第6輯『経営理論の変遷』(1999年5月発行)
- 第7輯『経営学百年』(2000年5月発行)
- 第8輯『組織・管理研究の百年』(2001年5月発行)
- 第9輯『IT革命と経営理論』(2002年5月発行)
- 第10輯『現代経営と経営学史の挑戦』(2003年5月発行)
- 第11輯『経営学を創り上げた思想』(2004年5月発行)
- 第12輯『ガバナンスと政策』(2005年5月発行)
- 第13輯『企業モデルの多様化と経営理論』(2006年5月発行)
- 第14輯『経営学の現在—ガバナンス論、組織論・戦略論—』(2007年5月発行)
- 第15輯『現代経営学の新潮流—方法、CSR・HRM・NPO—』(2008年5月発行)
- 第16輯『経営理論と実践』(2009年5月発行)
- 第17輯『経営学の展開と組織概念』(2010年5月発行)

第1輯より第9輯までは品薄ですから、ご希望の方はお早めに注文されるようお勧めします。



## 2011年度会費納入のお願い

当学会の会費は下記の通りです。納入に際しては、事務局より同封の郵便振替用紙をご利用下さい。

小切手や現金での事務局への送金は事務処理上責任を負いかねますので、厳にお断わりします(但し、所属機関の特別の事情により銀行振込が指定されている場合に限り、振込手数料を会員側が負担する条件で支払い可能です。この方式を利用する場合は、事務局までお申し出下さい)。

なお、領収書は振替払込書の振込票をもって代えさせていただきますので、少なくとも1年間は振込票を保管して下さい。研究費等の関係で、学会事務局発行の領収書を必要とされる方は事務局へお申し出下さい。

以前、院生会員として登録されている方で、その後、院生でなくなった方は、その旨事務局までご連絡下さい。

会費を3カ年以上滞納した場合は会則第4条の5の規定により「自然退会」の処置となりますので、ご注意下さい。

- 学会費
- 1) 普通会員：¥8,000
  - 2) 院生会員：¥4,000 (大学院博士後期課程在籍者も院生会員です)
  - 3) 賛助会員：(1口) ¥30,000



## 第20回全国大会 基本計画

### 1. 開催校と大会期日

2012年度の第20回全国大会は、明治大学で風間信隆会員を実行委員長として開催される運びとなりました。会期は2012年5月25日（金）（運営委員会、理事会）～27日（日）の予定です（今回は例年と異なり、5月第4週の日程となります）。

プログラム等が確定しだい、学会ホームページ上でお知らせします。

### 2. 統一論題：経営学の貢献と反省—21世紀を見据えて—

第20回大会の統一論題を企画するにあたり、創立20周年記念（2012年度が創立20周年に当たります）を冠する大会にふさわしいテーマを設定することは当然ながら、その設定基準の第一は、あくまでも経営学史という視座から問題を捉えるという視点であり、その第二は、特に前2回の大会テーマからの継続性を保つという意義をもつことです。そこで第三の基準は、経営学百年の歩みと重なる「20世紀」を通観しつつ、そこから経営学研究の方向性を長期的に展望することができるような問題意識です。

以上により、種々検討の結果、第20回大会の統一論題を『経営学の貢献と反省—21世紀を見据えて—』としたいと思えます。その趣旨は以下のようなものです。

\*

\*

\*

経営学の歴史は「20世紀」の幕開けとともにスタートを切り、その前半期においてほぼ「経営学」の原形を形成し、その後半期において多様な発展的展開を見せて今日に至っている。ここで「20世紀」とは単に西暦年代を表記するばかりでなく、「20世紀世界」という時代性を含意する歴史的文明論的概念である。そこには「キャピタリズム」と「インダストリアリズム」という大河が2度の世界大戦の堰を乗り越え奔流となって世界をのみ込み、さらに冷戦終結とIT革命を契機として「グローバリズム」の波が世界を洗うという「世界史」が刻印されている。そして、かかる時代趨勢のなかで「20世紀社会」の主演となったのが「ビッグ・オーガニゼーションズ」であり、その「マネジメント」であった。その意味で、経営学は「20世紀」の申し子として誕生し、「20世紀」の変遷とともに成長してきたと言って大過ない。現代経営学の内実が、企業論（ないし資本論）と事業論（ないし職能論）のマネジメント論（ないし組織論）による統一として展開されていることがそのことを示しているといえることができる。

2011年の現在、「20世紀」はなお継続している。経営学もまた「20世紀経営学」の鋳型を保持しつつ、企業と産業と組織の発展に寄与することを学術的使命として展開されている。しかし2011年3月11日を経験した今、それが自然災害という外圧を契機とするものであっても、ここでわれわれは否応なく、経営学の学術的功罪をあらためて総括する地点に立たなければならないであろう。経営学史とは、経営学を歴史的に再構成する視座であり、方法であり、学問である。われわれは経営学の過去（形成史）を反省的に省察し、「三陸ツナミ」と「フクシマ」、そしてその後の出来事が人災—われわれの用語に言い換えれば「マネジメントの失敗」—として発生したことの意味を正しく理解し、それを経営学の現在に活かし、未来へと繋げていかなければならない。

以上のように、われわれは第20回大会を機会に経営学史百年を「20世紀経営学」の形成史として捉えたうえで、あらためてその基本原理と主導的理論枠組み（パラダイム）の特色を明らかにする必要がある。もちろん、それは単に過去を評論するためではなく、あくまでも経営学の未来を「21世紀」とともに展望する契機とするためである。「21世紀」は、言うまでもなく、一部の意志や努力で人為的に形成されるものではない。それは文明の時代的変容として、「20世紀」の先に漸進的かつ未定形に形成されていくものであり、経営学の進化・発展もまた、基本的には時代の変化とともに徐々に累積的に顕現するものであろう。他方では、われわれの経営学研究が時代の流動を先取り、「ポスト20世紀経営」のモデルを提示することを通じて「21世紀経営学」の形成に資することも、不可能ではない。しかしながら、それも、われわれ自身が「20世紀経営学」の功罪を理性的かつ根源的に考究することなくしては、「21世紀経営学」への可能性を展望することすらできない。したがって、いま経営学史研究に問われていることは、「20世紀経営学」を徹底的に自己省察することであろう。

\* \* \*

以上のような大会テーマの趣旨のもとで、まず統一論題基調報告（1名）を設定する。次に、大会テーマをより具体的に展開するために、経営学を構成する企業経営論、事業経営論、組織経営論という3つの領域を討論の柱とし、上記の大会テーマ趣旨を踏まえ、それぞれの領域に2名の報告者を立てる。さらに、これに対する討論者を3領域に各1名を置く。

〈領域〉

〈課題〉

- I. 企業論（企業倫理論を含む）：企業の発展と社会の未来
- II. 事業論（生産技術論，経営戦略論を含む）：産業の発展と生活の豊かさ
- III. 組織論（マネジメント論を含む）：組織の発展と個人の満足

\* \* \*

以上が、第20回大会の基本計画です。報告者および討論者については、目下運営委員会および理事会で検討中です。決定しだい大会プログラムを作成し、学会ホームページ上でお知らせします。

### 3. 自由論題報告者の募集

次回大会の自由論題報告を募集します。自薦、他薦とも積極的に応募していただきたいと思えます。応募に際しては、①報告趣旨を1,000字程度にまとめて、②直近の論文の抜き刷りまたはコピーを添えて学会事務局までお送り下さい。応募の締め切りは12月20日（火）です。

可能な限りご希望に沿いたいと思えますが、多数の場合は運営委員会にて選考させていただきますので、予めご了承願います。報告論題は「自由」ではありますが、本学会の報告に相応しいテーマであることはもちろんのこと、原則的には大会テーマの趣旨に沿うものがより望ましいということで審査を行っています。なお、院生会員の方は、指導教授の推薦状を添えていただくことになっておりますので、応募時にはご留意下さい。

また、原則として自由論題報告も、大会報告に当日の議論を踏まえた上で改めて論文として仕上げ、査読を経て翌年5月刊行予定の年報第20輯に掲載されることとなります。大会予稿集の原稿を提出した時点から年報刊行時点まで、約1年半の期間を要します。周知のように本年報は市販学術書でありますので、本年報の論文と同一または著しく近似のものが年報刊行以前に他誌へ重複掲載されることのないよう、厳にご注意願います。

## 新入会員・退会者

2011年5月20日の理事会で承認された会員異動は以下の通りです。(敬称略・受付日時順)

### 1. 入会

| 氏名     | 所属・職名         | 専攻分野          |
|--------|---------------|---------------|
| ①加藤 敬太 | (小樽商科大学・准教授)  | 経営戦略論・経営組織論   |
| ②福重 八恵 | (小樽商科大学・准教授)  | 経営情報論・キャリア論   |
| ③風間 武也 | (関東学院大学・院生)   | 人的資源管理論       |
| ④大久保康彦 | (関東学院大学・院生)   | 経営戦略論・起業論     |
| ⑤木全 晃  | (香川大学・教授)     | 経営管理論・組織論     |
| ⑥小山 大介 | (神奈川大学・院生)    | コーポレート・ガバナンス論 |
| ⑦櫻井 雅充 | (神戸大学・院生)     | 人的資源管理論       |
| ⑧渡辺 泰宏 | (旭川大学・助教)     | 組織文化論・経営組織論   |
| ⑨脇 夕希子 | (青森公立大学・専任講師) | 人的資源管理論       |
| ⑩高橋 哲也 | (東京富士大学・専任講師) | 人的資源管理論       |

### 2. 退会

| 氏名     | 所属・職名     |
|--------|-----------|
| ①植田 栄二 | 四日市大学     |
| ②三島 斉紀 | 神奈川大学     |
| ③永松 博志 | NHK 福岡放送局 |
| ④河合 忠彦 | 中央大学      |
| ⑤足立 辰雄 | 近畿大学      |
| ⑥海道 進  | ご逝去       |
| ⑦代田 郁保 | ご逝去       |

他自然退会20名

### 3. 会員総数 (2011年5月20日現在)

|       |         |
|-------|---------|
| ①一般会員 | 256名    |
| ②終身会員 | 22名     |
| ③院生会員 | 29名     |
| 合計    | 307名    |
| 賛助会員  | 2社 (3口) |

編集後記

今年3月に起きた東日本大震災では地震・津波によって未曾有の被害が発生しました。会員の皆さま、あるいはご家族・ご親戚の中にも被災された方が多数いらっしゃったのではないかと拝察いたします。心よりお見舞い申し上げますとともに、早い復興をお祈りしております。

同じ東北地方ではありましたが、今年度の第19回大会は青森公立大学で開催され、盛会のうちに終えることができました。大会を準備された吉原正彦・実行委員長をはじめとする関係者の皆さまには、厚く御礼申し上げます。また、次回20回大会は明治大学での開催が決定し、統一論題のテーマは「経営学の貢献と反省—21世紀を見据えて—」とすることが決まりました。本学会にとっては第20回という節目の大会でもあり、実りのある大会になることを期待します。自由論題の報告も募集中ですので、そちらの方も奮ってご応募していただけると幸いです。

(勝部伸夫)

---

経営学史学会通信 第18号

2011年10月発行

発行所 経 営 学 史 学 会

事務局 〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155  
関西学院大学商学部事務室

TEL : 0798-54-6205

FAX : 0798-51-0903

e-mail : keieigakusi@kwansei.ac.jp

経営学史学会ホームページ :

URL keieigakusi.info

---